

# 仮想の衝突

The score consists of two staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). It contains a melodic line with slurs, accents, and dynamic markings of *f* and *mf*. The bottom staff is in bass clef with the same key and time signature. It features a bass line with a 'pizz.' (pizzicato) marking and dynamic markings of *f* and *mf subito*.

上例はギター二重奏曲譜で、私の最近の編曲の一部です。一般に混み合った譜面の仕上げには手入れが要りますが、これも調整を施した結果の姿です。Finale のスペーシング機能に任せておいてもそれなりの結果は出ますが、時にはそれが拙い結果を招くこともあります。

本例下パート1小節目の4拍頭のAシャープ音に注目すると、それが2オクターブ高かったなら、シャープ記号が前のE音の符尾に接触してしまうことが明らかです。同様の事情が2小節目の下パートEシャープ音についてもあります。けれ

ども、現実にも衝突してはおりません。音に相当な高低差があるからですが、ここまで水平距離を詰めても、可読性はむしろ向上するでしょう。

Finale のスペーシングには垂直距離を考慮するオプションがありません。下が同例に Ver.2009 日本語版のデフォルト設定のままスペーシングをかけた状態ですが、音が水平に並んだとしても衝突しないような配置になっています。そんなに悪くはありませんが、この部分、やはり少し間が空き過ぎて、他の音群を窮屈にしているかなとも思います。

This is an identical copy of the musical score shown in the first image, featuring the same two-staff arrangement with treble and bass clefs, key signature of one sharp, and common time signature. It includes melodic lines with slurs and accents, and bass lines with 'pizz.' markings and dynamic changes from *f* to *mf subito*.

こういった事柄は次の例で、より明らかになります。上が調整後、下がスペーシングをかけたままの姿です。ここでは臨時記号がなく、Finale が衝突回避しているのは加線です。

下のデフォルト譜例でも高低差は無視されていて、加線付き音に潤沢なスペースを与えるために他の音が非常に混み合っています。これは不自然です。上の例は小節の余白を詰めて、さらに細かく配置調整を施したのですが、少し面倒な作業になります。本例の場合ですと、実のところはスペーシング・オプションで「加線」を「衝突回避項目」から外すとい

う簡単な方法も有効ではあります。ただ、スペーシングは組段毎に掛けるべきもので、そうすると今度は他の部分で不具合が生じることが多いです。

小節ツールで音を丹念に移動させることが往々にして必要となります。あるいは単五線なら、または複数五線でもその拍点に他の音符や休符がないなら道具箱の音符移動を使うことも出来ます。手作業の時代と変わる事なく、詰んだ楽譜の制作は現代の Finale オペレーターにとっても腕と誠意を問われるものなのです。

2009年10月 梅本雅弘

The score shows two staves with a dense, overlapping rhythmic pattern. The notes are closely spaced horizontally, illustrating the 'collision' mentioned in the text. The notation includes various note values and rests, with some notes appearing to be on the same staff as others, demonstrating the lack of vertical spacing in the default setting.